



実行機能（やり遂げる力）の見立てと支援

① やり遂げる力

実行機能には様々な定義がありますが、子どもから大人まですべての人は、普段の活動をする際に行っている、その活動を「やり遂げる力」と表現されることがあります。このやり遂げる力が育っていると、遊びの中では絵を描き上げたり作品を完成させたりして達成感を味わい、学習の中では作文を書き上げたりダンスを最後まで覚えたりし有能感を感じることができ、友人と約束をして遊びに出掛けることができるようになる等にも「やり遂げる力」は欠かせません。

② やり遂げる力の組み合わせ

やり遂げる力は様々な能力が組み合わせられて発揮されると考えられています。注意持続（どんな状況でも課題に対する注意を持続できる力）、自己抑制（衝動性や感情を抑えて我慢できる力）、シフティング（柔軟に課題を切り替える・課題を開始する力）、セルフモニタリング（自分の行っている状況を判断できる力）、プランニング（目標までの道筋、段取り、優先順位、時間管理を決める力）、そして、やり遂げる力を発揮するための下支えとなるワーキングメモリ（情報を保持し処理する力や記憶しておく力）があります。

やり遂げるために必要な力の中で、就学前から求められるのは注意持続、自己抑制、シフティングが考えられます。気を散らさずに夢中になって遊んだり、勝負に負けて悔しい気持ちを抑えたり、座りたかった場所が空いていなかったときに移動したり、そういった社会生活に適応していく力とやり遂げる力は、相互に影響し合いながら育っていきます。

就学後にはこれらの力に加えて、セルフモニタリング、プランニングの力が求められると考えられます。授業中は私語をせずに落ち着いて参加し、休み時間には大きな声で笑ったり体を動かしたりするといったように、時と場合によって行動を調整したり、漢字のテストに向けて1日何文字覚えられるかを考え、どのくらいの時間勉強する必要があるかを把握して計画を立てたり、ここでもまた、社会生活に適応していく力とやり遂げる力は、相互に影響し合いながら育っていきます。

【宿題の提出を忘れてしまうAさん】

小学校2年生のAさんは、家で取り組んだ宿題を学校に持ってきているのに、提出するのを忘れてしまいます。提出するのを忘れてしまう背景と支援方法を考えてみたいと思います。

① 環境と大人の関わりのアセスメント

Aさんが1年生の時は、朝の会の中で先生が宿題を集める声掛けをして、クラス全員が同じタイミングで提出していました。2年生になると、登校したら朝の会が始まるまでに宿題を提出ボックスに入れることになり、朝の会の中での先生の声掛けはなくなりました。

② やり遂げる力のアセスメント

Aさんは朝、出掛ける際に保護者から「宿題を忘れずに提出してね」と声を掛けられています。登校中は覚えているのですが、教室に入ってランドセルから教科書やノートを机の中にしまっている間に、お友達に声を掛けられたり遊びに誘われたりすると、宿題を提出ボックスに入れずに、他の活動を開始してしまいます。これは、宿題を提出するという課題に注意を向け続けることの難しさ（注意持続）と、やり遂げる力を発揮するための下支えとなるワーキングメモリの制約が背景にあると解釈されます。

また、Aさんは朝の会の途中や授業の途中で宿題を提出していないことに気が付くことがあります。しかし、宿題は朝の会が始まるまでに提出するというルールなので、遅れて提出することはしません。これは、ルールとは違った方法でも、課題の達成を優先するという判断の難しさ（シフティングとプランニング）が背景にあると解釈できます。

③ 支援方法：環境の工夫

教室に入ってお友達に声を掛けられたり、遊びに誘われたりする前にはやり遂げる力を発揮しやすいと考えられるので、机の上に「まずは宿題を提出ボックスへ!」と書いたカードを置いておき、宿題を提出する順番を教室に入ってから一番始めにスケジューリングする、という方法が考えられます。この方法は、Aさんだけに限らず、「宿題の提出を忘れやすいな」と感じている子どもが、下校前にカードを自分の机に置いておくルールにすることで、クラス全体で取り組むことができます。

④ 支援方法：大人の関わり工夫

Aさんが1年生の時は、先生の声掛けをきっかけにシフティングの力を発揮して宿題を提出することができました。朝の会が始まる前に、「宿題の提出を忘れないように」と先生が声を掛けたり、子ども同士で「宿題を提出した?」と声を掛け合ったりするような学級の雰囲気を作っていくことで、Aさんもシフティングの力を発揮して、「忘れずに提出できた」という成功体験を重ねることができるようになります。

⑤ やり遂げる力へのアプローチ

Aさんがやり遂げる力を発揮できない背景に注意持続の難しさやワーキングメモリの低さがあると解釈しましたが、声掛けという関わり方以外にも、自分だけの力で成功体験を重ねられるようなアプローチが大切だと思います。

通級指導教室では、子ども自身で考え、自分で気が付きやすい、思い出しやすい方法を一緒に考え試していきます。そうすることが、他の生活場面でもやり遂げる力を発揮することにつながると考えています。